

1 交通調整会議の位置づけ

藤沢駅南口駅前広場計画とりまとめ（平成31年度）

藤沢駅南口駅前広場等あり方検討会議

目的

藤沢駅周辺活性化に資する南口駅前広場のあるべき姿及びデッキ再整備の方向性にかかる意見、提案をいただく会議。

委員

学識経験者
市民代表（鵠沼地区）
地元経済団体（商工会議所・商店会連合会）
隣接街区等権利者
鉄道事業者
藤沢市

藤沢駅南口交通広場調整会議

目的

藤沢駅南口の交通結節機能の向上を目指し、検討素案をベースとして、関係者間の調整を図る会議。

委員

学識経験者
バス事業者
タクシー事業者
鉄道事業者
藤沢市
交通管理者（オブザーバー）

連携

1 交通調整会議の位置づけ

藤沢駅南口交通広場調整会議

会議の位置づけ

目的

藤沢駅南口の交通結節機能の向上を目指し、検討素案をベースとして、関係者間の調整を図る会議。

委員

学識経験者
バス事業者
タクシー事業者
鉄道事業者
藤沢市
交通管理者(オブザーバー)

開催予定

H29年度 2回 H30年度 2回程度

各回の議題(案)

第1回

本調整会議の設立、藤沢駅南口の現状と課題、意見交換

第2回

交通広場再整備の考え方について

第3回

交通広場再整備の方向性について
歩車道空間の再配置について

第4回

藤沢駅南口駅前広場基本計画について

H29年度

H30年度

スケジュール(案)

	H29年度							H30年度												
	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
交通広場調整会議				★				★								★		★		
あり方検討会議		★			★		★					★			★	★	★			
藤沢市の動き				アンケート										基本計画案の作成						

2 これまでの意見

（1）第2回交通調整会議における意見

■日 時：2018年（平成30年）3月29日（金）14時15分～16時00分

■場 所：藤沢商工会館（ミナパーク） 303会議室

■委員からの主な意見・課題

<乗り換えの利便性について>

- 駅改良による乗り換えの利便性の向上も大事だが、行政と鉄道事業者の連携によるサイン改良についても考えるべき。
- 駅周辺のサインを考える時には、駅だけでなく、湘南エリア全体で考えるべき。例えば藤沢市と鎌倉市という行政間の連携によるサイン計画が必要。

<配置案について>

- 滞留スペースや藤沢駅の特色のある空間の具体的な場所については、今後議論を深める必要がある。
- 駅前広場を考えていくのに、駅舎や駅周辺の建物とどのように連携していくかについて考慮する必要がある。

<駅前広場内必要な機能について>

- バリアフリーや歩行者優先といった考え方も重要と思う一方、バス・タクシーのスペースが狭くなるのではないかとこの難しさがある。バランスをとる必要がある。
- バリアフリー対策として、一般車をあえて駅の一番近い場所に配置する事例もあるので、一般車の配置の考え方について議論すべき。

<交通処理について>

- 駅前広場外周の民地、あるいは道路と一体となって、荷捌きスペースの確保について考えていく必要がある。
- ロータリー内の荷捌きが交通の妨げになるので、対策を考えてもらいたい。
- 路肩の駐車場も併せて検討すべき。

<自転車の考え方について>

- 駅前広場外周部での駐輪場の確保や広場への自転車の進入方法、広場に行くまでの自転車道の整備といった考え方をしっかり計画すべきである。
- シェアサイクルの導入の可能性について検討した方が良い。
- 藤沢駅の南北間の移動の利便性を考慮しつつ、駅前広場及び地下道における自転車の位置づけを検討する必要がある。
- 駅前広場周辺だけでなく、藤沢市全体の交通計画の中で整理を図る必要がある。

<駅前広場への出入り動線の考え方について>

- 駅前広場の出入りの動線を南側に限定することについて、今後議論を深める必要がある。
- タクシーのメーターが変わると、市民から理解を得られない可能性もあるので、駅前広場への出入り動線の変更について慎重になって考えてもらいたい。
- 多くの方向から様々な車両が流入するという現状に対して今後どう考えるかについて大方針を出すべきである。

第2回交通調整会議のまとめと今後の進め方について

- 駅前広場への車両の流入箇所の変化については影響が大きいので、慎重に議論を進めるべき。
- バリアフリーや歩行者優先の方針と、公共交通の配置のバランスをとる必要がある。
- 荷捌き車両の取り扱い・自転車動線・サイン計画についても検討すべき。

→ご指摘を頂いた交通処理の考え方に関する方針については、今後個別協議をさせて頂きながら、たたき台を作成した上に、改めて議論を行う方針とする。

2 これまでの意見

(2) 藤沢駅南口駅前広場等あり方検討会議の意見

第4回の意見まとめ

<デッキについて>

- ▶ 駅からの動線としてデッキがある前提でビルを建てているため、将来的にもせっかくあるデッキは活かしていただきたい
- ▶ 2階部分に乗換もあり、自由通路も今後整備されることを考えるとデッキレベルに歩行者動線がある方が周辺の商業に対しても有効なのではないか。
- ▶ 駅の改良と合わせてデッキについても検討するべきではないか。小田急線の橋上化によって、人の流動も自由通路も2階レベルが中心になるのではないか。
- ▶ デッキを撤去しても、改めて地上部をきれいに整備すれば、人はそちらから入ってくるだろう。乗換部のデッキのみあれば十分なのではないか。
- ▶ デッキによる回遊性や利便性は無視できないが、地上レベルの歩行動線は視界の抜けや街の認識という観点からも重要である。周辺の街への回遊動線として将来的にも守っていくべきなのではないか。

<駅前広場における緑について>

- ▶ 緑はせっかく現在ある資源なので、そういったものは残すべきではないか。
- ▶ 現在、交通島になっている部分は、無駄なスペースのように思える。その場所をなくしてしまえば、よりフレキシブルな駅前広場の使い方ができるのではないか。
- ▶ 現在の眺めるだけの緑ではなく、芝生広場等のふれられるような緑になるとよいのではないか。

<藤沢らしさについて>

- ▶ “藤沢らしさ”と言われているものが、ブランディングの観点からは不十分なのではないか。将来的に藤沢駅にどういった層の方に来てもらいたいのかをきちんと考えて、藤沢らしさをより明確で魅力的なものにする必要があるのではないか。

第5回の意見まとめ

<デッキについて>

- ▶ デッキを撤去し地上部の歩行者通行量が増加することにより、バス・タクシーの定時性や歩行者の安全性が低下するのではないか。また、南北のつながりが弱くなるのではないか。
- ▶ JR線や小田急線が2階となるため、地上部と2階部分の昇降は必須となる。デッキを撤去するのではなく、現状デッキの各端部にエスカレーターを付けることで、解決できるのではないか。
- ▶ 他都市では、デッキを直線的に結んで失敗している事例もあるのでないか。
- ▶ デッキを撤去する前提ではなく、デッキが必要だという考えも踏まえ、様々な可能性がある中で今後議論をしていきたい。デッキが残る場合の計画案を確認した上で、地上部重視か2層構造とするかの議論ができると思う。

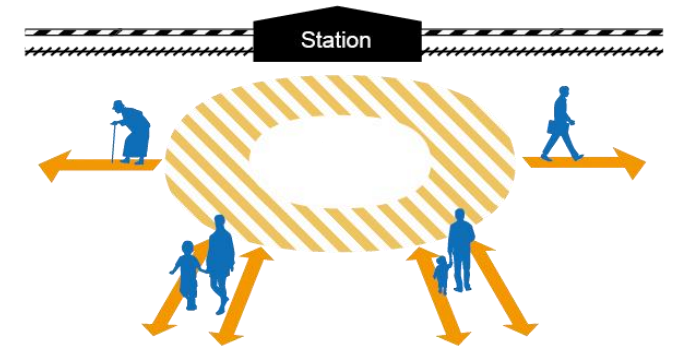
<南口駅前広場再整備の方針について>

- ▶ 再整備の方針について、このような方針で駅前広場を再整備できたら良い、というところまで共有できたのではないか。
- ▶ 長期的な再整備として考えるならば、2mの高低差を合わせる等、更に踏み込んだ計画にするのが良いのではないか。JR線や小田急線を絡めて、もっと広い視点で計画を立ててほしい。
- ▶ 将来的に、南口は地上部分を一番大事にするべきではないか。既存のデッキを残すよりも、地上の連続性を保てる方が良い。
- ▶ 藤沢駅は住民だけでなく様々な方が利用している。実際の需要を踏まえた上で、求められていることを適える駅前広場とするのが良いのではないか。
- ▶ 南口駅前広場のイメージに描かれている滞留空間がどのような空間となり、またどのような使われ方にしたいのか、分からない。広いスペースではないことから建物側と連携するのか等、具体的に空間のイメージを示してほしい。
- ▶ 限られた空間の中で、何を優先し、何を犠牲にするかを考えていかなければならない。現状は、デッキを撤去することによるメリット、残すことによるデメリットが示されていないため、それぞれ確認する必要がある。

3 南口駅前広場の再整備の方向性について (1) 南口駅前広場再整備の方針

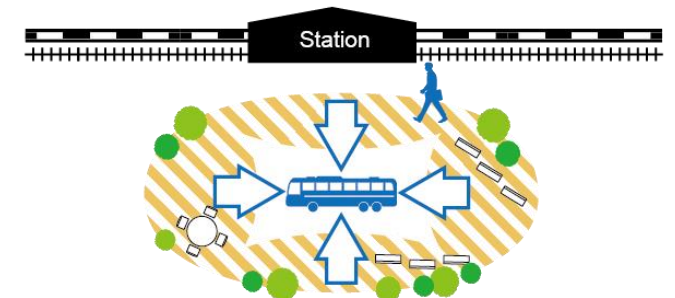
方針① 歩きやすい歩道の整備と周辺の街へのつながりの強化

- ▶ 誰にとってもより歩きやすい歩道づくりを心掛け、乗換動線や地上部も含めて移動のしやすい歩道づくりを行う。
- ▶ 周辺の街区や商業施設へのアクセスの向上を図り、街全体を人が回遊しやすくなるような駅前広場を整備する。
- ▶ 段差解消や勾配軽減等のバリアフリー化を徹底し、高齢者にも歩きやすい空間とする。



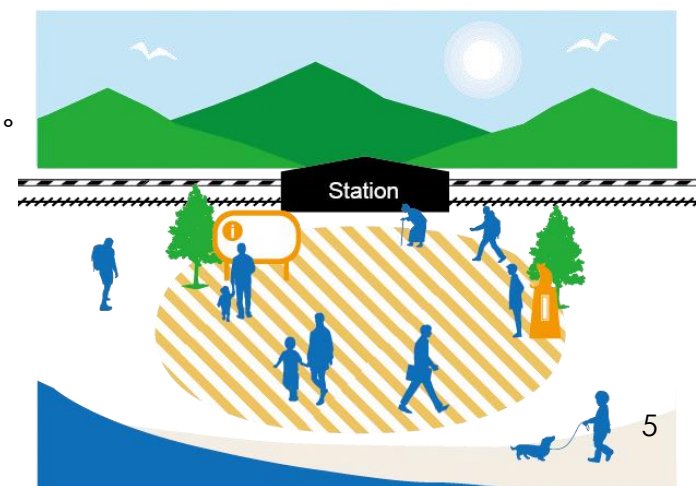
方針② 歩道と車道のバランスを整え、市民が居場所として過ごせる広場づくり

- ▶ 現状の通り過ぎてしまうだけの駅前広場に市民が過ごせる滞留スペースを新たに整備する。
- ▶ ちょっとしたイベントや、休憩、こどもが遊べるような機能を設ける。また、その場所を適切に使われるように維持管理を行い、居心地のよい場づくりをする。
- ▶ 駅前広場内に必要な機能の整理を行い、車道空間と歩道空間の再配分することで広場内にたまり空間を創出する。



方針③ 藤沢ならではの魅力を取り入れた空間づくり

- ▶ 藤沢の資源（海が近い温暖な気候や、落ち着いた豊かな暮らし、江の島や藤沢宿等の歴史的資源等）を活かし、駅前広場のデザインとして藤沢らしさを取り入れることで、全体的な雰囲気も含めて魅力的な空間づくりを行う。
- ▶ 湘南観光への玄関機能として、観光案内や藤沢の魅力をアピールできるような情報発信を行う。
- ▶ 待ち合わせや来街者への目印となるようなシンボル機能について検討を行う。



3 南口駅前広場の再整備の方向性について (2) 再整備の方針に対応した取組事項

方針① 歩きやすい歩道の整備と周辺の街へのつながりの強化

取組事項

- ①-1 地上部の歩いて心地よい空間づくり
→駅前広場を囲む歩行者動線を現況よりも拡幅し、広々として歩いて心地よい空間にする。
- ①-2 街の個性がにじみだす空間づくり
→周辺の街の個性がにじみだすような空間を随所に設け、駅前広場と周辺の街へのつながりを高める。

方針② 歩道と車道のバランスを整え、市民が居場所として過ごせる広場づくり

取組事項

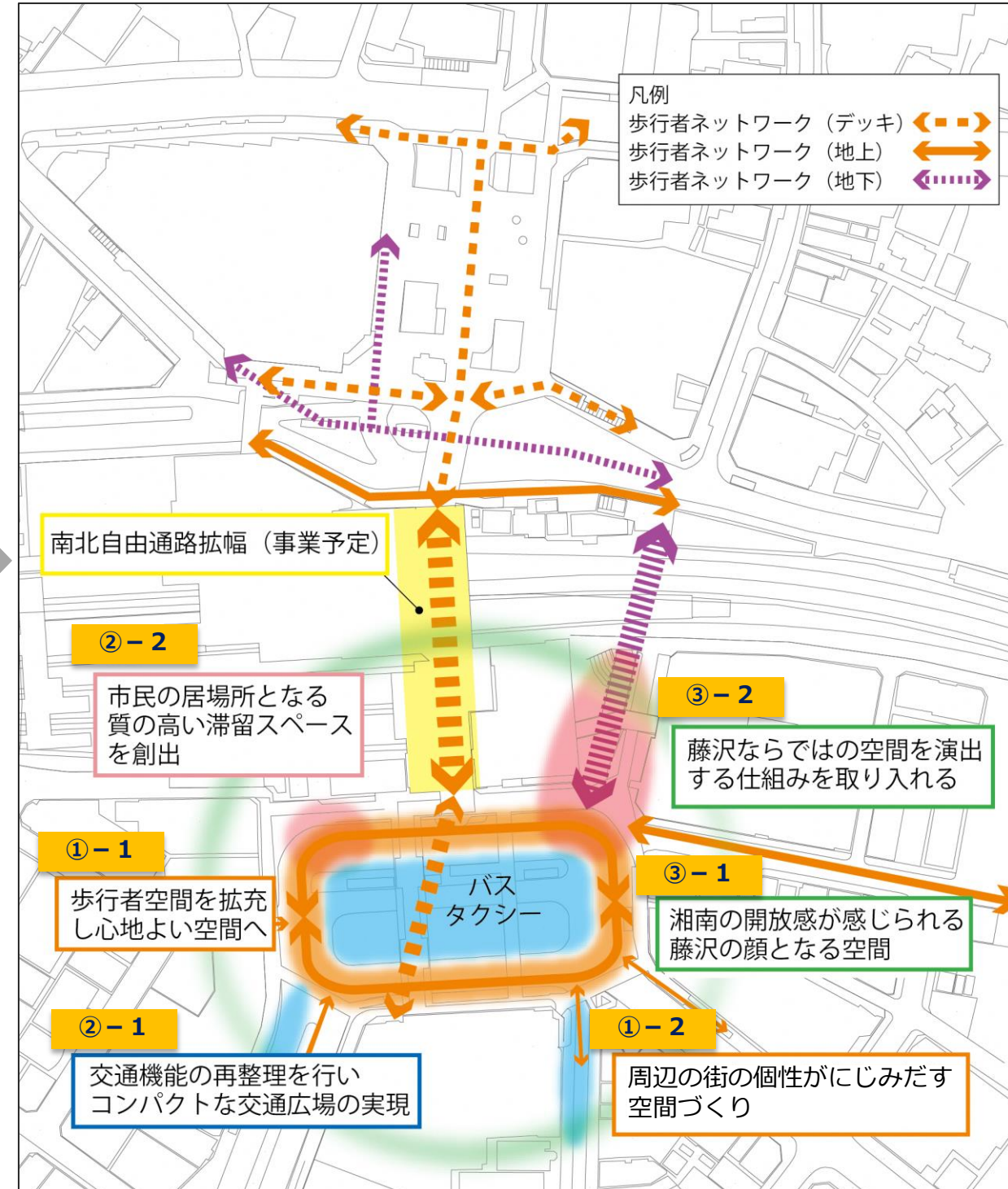
- ②-1 交通広場へ導入する機能の再整理
→交通広場は公共交通（バス・タクシー）を中心とし、安全性を向上し、コンパクトな広場とする。車両動線などを再検討し、スペースの効率化と、周辺施設へのアクセス性の向上を図る。
- ②-2 市民の居場所となる広場を生み出す
→駅前広場に空間的な余裕をつくりだし、市民が使うことのできる空間と仕掛けを設ける。

方針③ 藤沢ならではの魅力を取り入れた空間づくり

取組事項

- ③-1 湘南の開放感を感じられる、藤沢の顔となる空間づくり
→地上部においては開放感のある明るい駅前広場を目指す
→歴史的な江の島道と、江ノ電旧路線の2つの軸線をデザインに取り込むことで、湘南の海とのつながりを感じられる、藤沢の顔となる空間づくり。
- ③-2 藤沢ならではの空間を演出する
→藤沢の広い空やゆったりと流れる空気感を演出するため、集まる、座る、休む、緑に触れる等が出来るさまざまな仕組みを取り入れる。

■ 整備の考え方（案）



3 南口駅前広場再整備の方向性について
 (3) 再整備の方針や課題を踏まえた地上部の空間イメージ

※将来の整備の考え方を示したイメージ図で、
 広場の具体的な配置や車道空間について示したものではありません



■ 現況駅前広場の課題

- 車両が6方向から流出入しており、バス、タクシー、一般車の動線が交錯
- 歩行者と車両の交錯
- 降雨時一般車の流入増加によるバスの遅れ
- 駅前広場や周辺の道路における荷捌き車両の駐停車による交通の阻害
- バス待ち行列と歩行者が混在
- 空間の広さに対して歩行者が多く、歩きにくい・見通しが悪い

■ 再整備の方針

方針② 歩道と車道のバランスを整え、市民が居場所として過ごせる広場づくり

②-1 交通広場へ導入する機能の再整理

→交通広場は公共交通（バス・タクシー）を中心とし、安全性を向上し、コンパクトな広場とする。車両動線などを再検討し、スペースの効率化と、周辺施設へのアクセス性の向上を図る。

②-2 市民の居場所となる広場を生み出す

→駅前広場に空間的な余裕をつくりだし、市民が使うことのできる空間と仕掛けを設ける。